

川内港久見崎みらいゾーン産業立地ビジョン（案）の概要

令和 2 年 7 月
薩摩川内市・薩摩川内市土地開発公社

1. これまでの経緯・背景

薩摩川内市第2次総合計画や都市計画マスタープラン等を基に、平成 28 年度に工業団地の適地調査を実施し、4 候補地区から久見崎用地を選定。併せて、滄浪地区コミュニティ協議会（久見崎町）からの当該用地を活用した地域振興要望等もあり、川内港久見崎みらいゾーン（以下、みらいゾーン）開発事業を推進してきた。

【川内港久見崎みらいゾーン開発事業概要】	
(1) 事業面積	約 32.4ha(うち分譲面積 15.9ha)
(2) 開発計画内訳	①工業ゾーン 11.5ha、②宅地ゾーン 0.5ha、③多目的ゾーン 3.9ha
(3) 事業期間	平成 29 年度～令和8年度
(4) 分譲開始	令和 4 年度目標

2. 本ビジョン策定の目的

本ビジョンは、他の工業団地との差別化を図るため、みらいゾーンにおける“誘致政策・誘致活動”、“誘致する用地”、“地域”の3つの要素を包括した産業立地戦略を示すとともにその戦略の方向性を明らかにする。

3. 産業立地の目指すべき方向性

これまで自治体が進める企業誘致施策の多くは、補助制度を呼び水として、域外から、特に雇用創出効果の大きな労働集約型の工場誘致を目指すものであったが、持続的な経済成長を目指す上では、新たな基本方針を設定した提案型の産業立地施策を進めることが求められている。

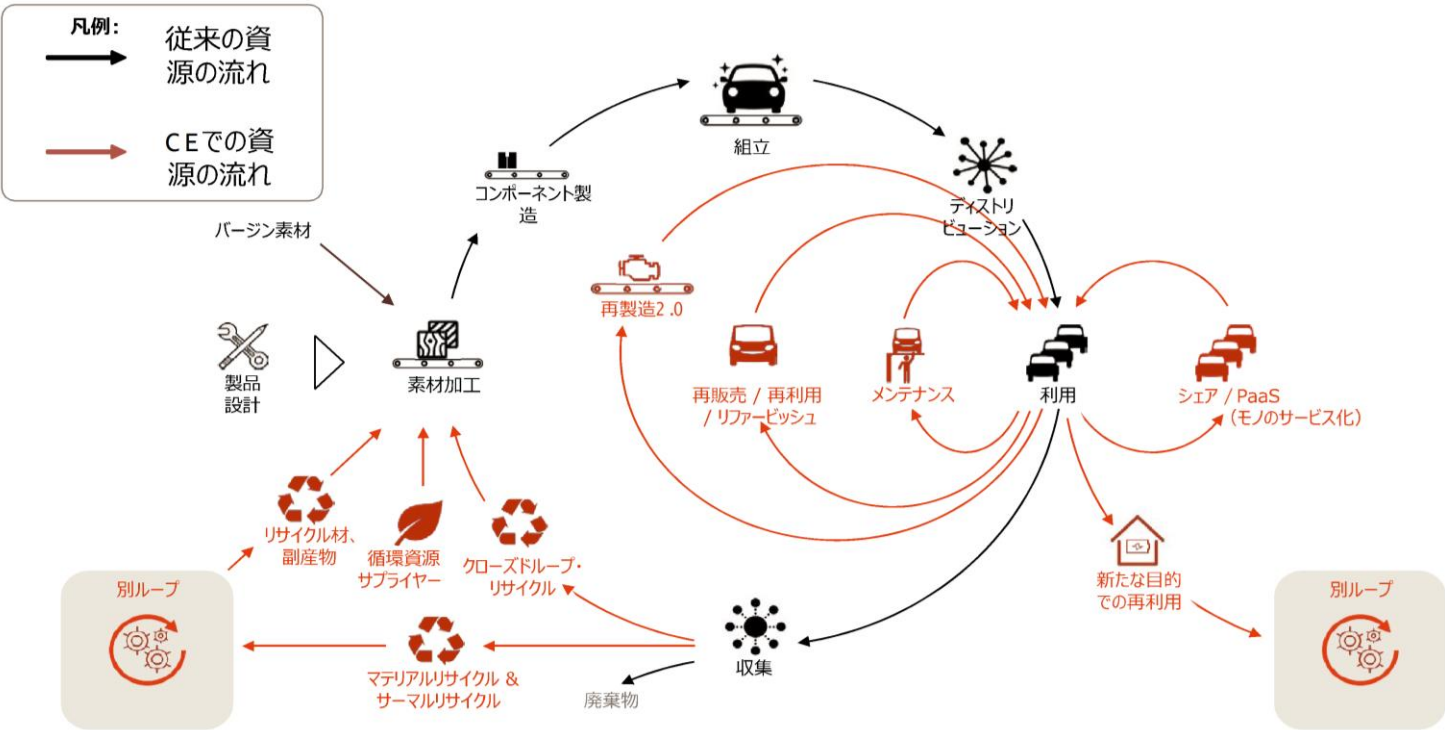


【産業立地の基本方針】	
①	SDGs、 <u>循環経済モデル</u> 、先端素材、再生可能エネルギーを取り入れた 21 世紀型産業の育成
②	川内港との連携による川内港背後地機能の強化
③	南九州西回り自動車道の全線開通を見据えた物流拠点の整備
④	地元地区の地域活性化

4. 『循環経済』という新しい概念

- 循環経済（サーキュラーエコノミー：CE）は、「大量生産・大量消費・大量廃棄」の線形経済から、資源循環や適量生産といった新しい手法を取り入れ、長期的に成長していく経済モデルである。
- 現在、国においても「循環経済ビジョン 2020」を策定し、環境問題の深刻化を受けて、資源投入量や消費量を抑えた循環経済への転換が唱えられている。

- 特に、プラスチックや繊維、CFRP（炭素繊維強化プラスチック）、バッテリー、太陽光パネル等は、今後も相当量の廃棄物量が見込まれ、環境負荷軽減の観点からも新たな資源としての活用が求められている。
- ※ 本市としては、みらいゾーンを循環経済モデルの拠点とし、新しい概念を積極的に取り入れ、先駆的・先行的に取り組むことで、提案型の産業立地を目指す。



循環経済の概念図

出典：循環経済ビジョン 2020（令和 2 年 5 月・経済産業省）

5. 薩摩川内市が目指す将来像

- (1) 薩摩川内市は、循環経済を中心とした新しい都市像「循環経済産業都市」を今後のまちづくりの目指す将来像として推進する。
- (2) みらいゾーンの開発を中心に、従来の企業誘致ではなく、次世代の産業を担っていくスタートアップ（新興企業）や起業家を育成する新しい産業集積に取り組む。
- (3) みらいゾーンでは、環境や社会課題に対し、アイデア・技術を試験・実証し、そこで得たノウハウや知見を社会実装化するだけでなく、域内外の人や知財、技術、情報等が交わり、共創することで、みらいゾーンの価値を高めていく仕組み・体制の構築を目指す。

みらいゾーンを中心に薩摩川内市が目指す将来像
環境や社会課題の解決を見据えた持続的な発展を目指す 「循環経済産業都市・薩摩川内市」

6. 産業立地戦略の方向性

みらいゾーンでは、育成、研究・開発、投資の循環を創出することにより、産業育成、産業創出の仕組み・体制の構築を推進する。については、九州大学芸術工学研究院との共同による研究・開発を実施し、その拠点となる施設の誘致を目指す。

その活動にあたっては、5つの研究テーマにおいて、スタートアップ（新興企業）等との循環ビジネスの社会実装を軸とし、市民や地域企業、国内外のデザイナーやアーティストと共に様々な先進的活動やイベントを主宰する。

また、社会や企業のニーズと技術・アイデアを結ぶライブラリーやラボ等の機能等を付加し、新たな製品の創出や投資の循環を促す。

(1) 中核となる機能

① 循環素材ライブラリー機能

産業廃棄物の新たな用途を創造・デザインし、資金調達（例：市外からの投資獲得）のためのアイデアソンⁱ等のイベントを常態的・継続的に実施。

② 循環マテリアル・バイオマテリアルを活用した先端研究機能

九州大学芸術工学研究院を中心に市民生活に直接関連する衣食住や廃棄物量の多い産業基盤分野について、生活とデザインを基軸とした研究・開発を実施。

③ 市民発イノベーションラボ

市民・地域企業・新興企業・国内外の研究機関等の各主体が有機的に連携しながら、各主体のニーズやシーズ（技術）、アイデア等を出し合い、ビジネス化を模索。

(2) 循環素材・バイオ素材に関する5つの研究テーマ

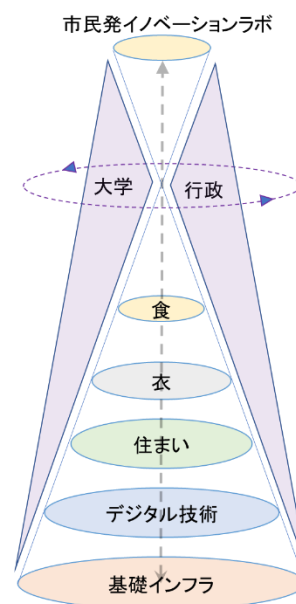
① 食：農業・畜産業から日常まで、食品生産・消費プロセスで排出、または廃棄される「余り」や「無駄」の循環

② 衣：生活に身近な、おむつやファッションなど「衣服」に関する循環

③ 住まい：建築材料から土地活用法まで、地域の素材やデジタルファブリケーション（デジタル工作機械）等の活用

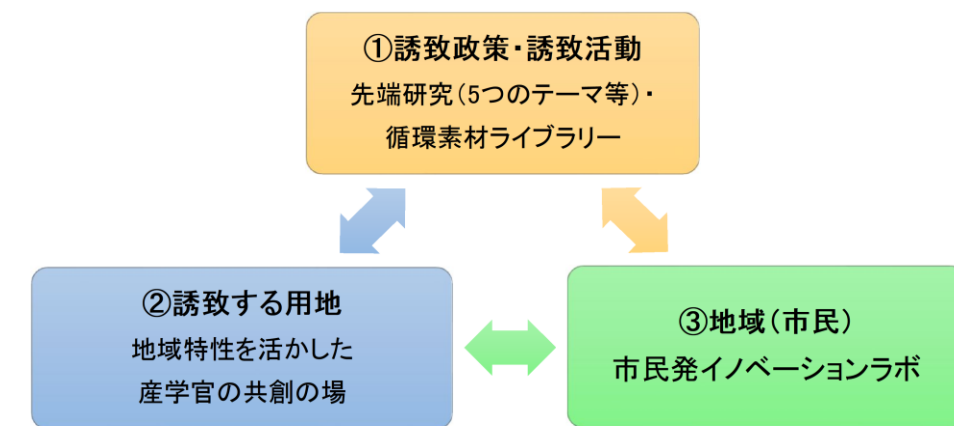
④ デジタル技術：マテリアルライブラリー（廃棄物原材料のデータベース化）の構築から循環経済促進のためのソフトウェア開発

⑤ 基礎インフラ：エネルギーや水等、基幹的インフラの循環設計及び政策の検討を行うメタ（高次）レベルのデザイン研究



(3) 産学官連携の体制

本ビジョンは、薩摩川内市（官）と九州大学芸術工学研究院（学）が共同で企画運営し、産業廃棄物処理、ファッション、食、建築、デザイン教育などの分野で、最先端の循環経済・社会活動を行う実践者群（産）の参画を促す構想である。



3つの要素のイメージ

7. ロードマップ

年 度	内 容
令和2年 (2020 年)	■九州大学芸術工学研究院と共同プロジェクト体制構築 ・薩摩川内みらい調査、循環社会ワークショップ、アイデアソン等の実施 （成果・成果物） ・活動レポート：出版・イベントなど
令和3年 (2021 年)	■ラボの運営開始とベンチャー協働推進 ・仮施設にて研究ラボ及び市民発イノベーションラボ運営開始 ・国際連携レジデンスプログラム（滞在型プログラム）開始 ・スタートアップ企業誘致イベント （成果・成果物） ・活動レポート：出版・イベントなど
令和4年 (2022 年)	■レジデンスプログラムによる実績の創出 ・仮施設にてスタートアップ企業研究開始 ・国際連携のレジデンスプログラム参加者による活動報告イベント （成果・成果物） ・活動レポート：出版・イベントなど ・研究レポート：論文・実装、展示、イベントなど
令和5年～ (2023 年)	■ベンチャー誘致と社会実装 ・みらいゾーンへの入居開始 ・企業との連携を前提とした実装研究 （成果・成果物） ・活動レポート：出版・イベントなど ・研究レポート：論文・実装、展示、イベントなど ・実装：製造・サービス開始

ⁱ ラボ：研究や製作に加え、事業化コーディネート、企業や投資家とのマッチング等の複合的な役割・機能を有するものを指す。

ⁱⁱ アイデアソン：同じテーマについて皆で集中的にアイデアを出し合うことにより、新たな発想を創出しようとする取り組み。